

68. <下水処理場の巡視点検>

下水処理場の一日は、夜勤者との業務の引継ぎから始まります。夜勤者は、前日の昼勤者から業務を引き継いでから、明くる日の朝までの処理施設の運転状況、例えば、夜間の揚水量、反応槽MLSS濃度、SVI、放流水質（COD、N、P等）を報告します。そして機器の故障等が発生した場合にはその対処方法を、今日の昼勤者に申し送ります。これらの事項を報告するため、施設の運転状況を把握していなければなりません。そのためには施設の巡視点検が必要となります。

巡視点検は、昼勤2回、夜勤2回ぐらい行っています。

巡視点検は主に五感を使って行われます。異音・異臭・異常振動そして異常過熱等がないか、稼動している機器を1台ずつチェックしていきます。また、現場に設置されている指示計により、電流値、流量等が正常な値を指示しているか確認します。

水処理施設担当者は、反応槽、返送汚泥等の水汲みをし、SVの測定をします。また、放流水の透視度も測定します。

そして、忘れてはならない重要な仕事があります。それは、施設の清掃です。特に汚れる除塵機、スクリーンかす集荷コンベヤ等の清掃です。汚い物が流入してくる場所ですから、小まめに掃除をしないと、直ぐに汚い・臭い不衛生な下水処理場となってしまいます。

以上が下水処理場の巡視点検業務の一部です。ピカピカ光った仕事では無く地味な仕事だと思えます。しかし、無くてはならない重要な仕事だと私は考えます。

今日も黙々と下水処理場の運転・維持管理業務をしている、我々の仲間メールを送りたいです。

< 遠山 晃二 >

※ J S 技術開発情報メール No. 75 号(2008/2/6)に掲載